馬渡の眼　18

子ども食堂篇
9年目を迎えた無料塾・子ども食堂

馬渡　徳子

今回は、我が子ども食堂の現況についてご紹介したいと思います。

無料塾・子ども食堂には、**『子どもの権利条約カレンダー』とポスター（　子どもの権利条約３１条の会制作　）を掲示**しています。

２０１９年からは、教え子である金沢大学の学生や大学院の留学生、富山大学の学生が、ボランティアにきてくれています。彼らは、それぞれが自治体委託の学習支援、カタリバ、北陸きょうだい会、かなざわユースセンター、石川に夜間中学をつくる会（県立あすなろ中学が実現し解散）のメンバーです。彼らから「イベントは大人主導ではなくて、子どもたちが企画から参画できるようにしましょう。」と提案され、改めて子どもの権利条約３１条の価値に気付かされました。

昨年度からは、金沢大学教職大学院の方々のフィールドワークを受け入れており、この掲示に気付いてくださった時には、とても嬉しくなります。

さて、現在利用登録している子どもたちは、３自治体１１校（小中高校・特別支援学校）で、乳幼児（加配保育の子どもも）から高校生まで７２名です。不登校（完全な不登校から緩やかな不登校の子ども）を選択している子どもたちや放課後等デイサービスに通う子どもたちもいます。

開催日は**毎週月曜日（祭日は休み）の１７時頃から２０時**までで、**夏休み等の長期休暇中には、火と水曜日の昼に追加開催**（盆休みと年末年始休み）しています。**自由に出入り**できるのと、**希望に応じて送迎**もあります。家族三世代で参加される方もいて、**子どもも大人も無料です。**

毎週６０食（イベント時は８０食）を午後から作成しています。一昨年からは長期休暇中は、王将（全国的な子ども食堂支援）のご支援も得ています。大学生からの提案で、クリスマス会は子どもたち主導でピザとクレープを作成し、ボランティアがお手伝いをしています。長期休暇中のおやつ時間には、子どもたち主導でクレープやホットケーキ、たこ焼きを作っていて、その出来栄えに「映えるう！」と感嘆の声が上がります。

クリスマスプレゼントや夏祭りの景品なども、子どもたちと選んで準備をしています。財源は、定期的に寄付を下さる精神科や小児科医師や元美術教師の油絵画家の方、弁護士などの応援があり、成り立っています。

イベント時のボランティアには、地元企業の社員さんや保育士、助産師、元教師等の社会人も応援に沢山駆けつけてくださり、子どもたちは毎回わくわくしながら楽しみにしています。

母体法人が公益社団法人の医療機関ですから、コロナ禍も相談にのっていただきながら乗り越えました。
感染症やアレルギー、予期せぬ事故や災害時への対応等のマニュアルに添っての対応が叶うことが強みです。医療ソーシャルワーカーに生活相談をつなぐこともできます。

今年は 5 年ぶりに利用者(子ども・保護者)アンケートを実施し、寄せられた声に励まされました。
子どもたちからは、メニューは秘密にて「なんのごはんがでるかわからないから、いつもわくわくする」「いえやきゅうしょくとはちがうカレーライス」「みんなといっしょにたべるごはんがたのしい」、わくわくするのは「みんなでつくるおやつやピザ・クレープ・たこやき・おこのみやき」「じぶんのたんじょうかいのケーキ」「プレゼントやプラバン、こうさく」「がいこくのひととか、ふだんおしゃべりしたことのないおとなやおにいさん、おねえさんとあそぶこと」
保護者からは、「いつも助かっています。大人とのかかわりに飢えている我が子たち、いつも『おかえり』と迎えてくれて、久しぶりに遠慮がちに思春期の子が来ても『嬉しい』『待ってたよ』と迎えてくれて、話や遊び相手をしてくれて喜んでいます」「炬燵みたいなからだも心も緩めるところ」「こ

こで幾度となく危機を救っていただきました。そんな家族は、うちだけではないと思います。本当にありがとう。」「私が大病で入院中に、上のきょうだいとだけで過ごした時がありました。事情を聞いて簡単に宅配にはせずに、逆に『だったらなおのこと、みんなでご飯を食べよう』と子どもたちみんなを送迎で迎えて下さいました。他にもシングルマザーの支援を教えてくださり、乗り越えられました」

かくして、９年目を迎えてようやく「生活に困っている子育て世帯が利用するところ」ではなく、**誰でもウエルカムということが地域に浸透**してきました。今夏は３度も地元紙に取り上げていただく機会があり、長期休暇中のみならず「子どもの居場所」への関心の高さが伺われました。
「人生は、何が起こるかわかりません。これからも、誰もがみな、生活課題を無くすことはできないけれど、どう向き合ってどう対処していけばよいのか、まずはお話をきかせてください。ご一緒に考えましょう。場合によっては、同意を経て、適切な専門職におつなぎいたします。」という姿勢をスタッフは貫いています。

そう、子ども時代の私自身が、実家で出逢ったおもしろいおじさん、おばさんのように、**来てくれたことを喜び、居たいようにいていいよとの態度を堅持したい**と思います。

大切にしていることが、８つあります。①子どもたちをファーストネームで呼ぶこと。②「おかえり。待ってたよ。」「ようこそ」とお迎えすること。③４つの大小環境の異なる部屋のどこを選んでもいいよ。④誰もが無料の価値を、可能な限り堅持すること。⑤人を見かけで判断しないこと。⑥いろんな人がいることを、逆におもしろがる発想の転換をもち、排除しないこと。⑦イベントは、子どもたちの参画で企画から運営すること。⑧毎月の運営会議を怠らず、合議で決めていくことです。

さてさて、これからどんな子どもたちと地域の大人たちに出逢えるかな。スタッフわくわくしながら活動しています。